



Y.Machida

## THE CHUNICHI SHIMBUN HAI

## 第61回 中日新聞杯 (GⅢ)

1 着 2 着 3 着 4 着 5 着  
本 賞 43,000,000円 17,000,000円 11,000,000円 6,500,000円 4,300,000円  
付加賞 637,000円 182,000円 91,000円



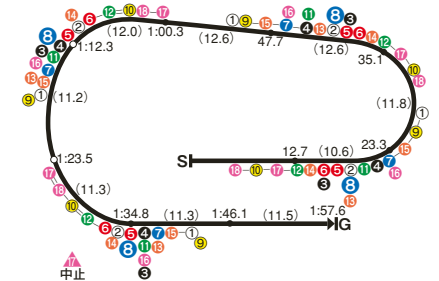
レース映像は  
コチラでご覧  
いただけます。

3歳以上、2024.12.7以降2025.12.7まで1回以上出走馬、除未出走馬および未勝利馬  
負担重量 ハンデキャップ

2025.12.13 中京 晴・良 芝2000m (国産) (特指)

順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (管差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑧	シェイクユアハート	牡 5	56.5	古川吉洋	1:57.6	8-9-9-10	33.2	458(±0)	5.4③	宮 徹(栗東)	109
2	⑦	レッドバリエンテ	牡 6	56	西村淳也	1	4-4-5-4	33.8	492(-6)	14.8⑦	中内田充正(栗東)	106
3	⑤	ジュンテイク	牡 4	57	藤岡佑介	ハナ	12-11-7-6	33.6	500(+10)	9.5⑤	武 英智(栗東)	108
4	⑭	シンハナダ	牡 4	56	鮫島克駿	ハナ	14-14-12-12	33.2	470(+10)	5.0②	国枝 栄(美浦)	106
5	⑥	メリオール	牡 4	55	武 豊	1%	12-13-14-14	33.2	502(+4)	21.0⑩	友道康夫(栗東)	
6	⑨	ピースワンデューク	牡 4	55	柴田善臣	ハナ	2-2-1-1	34.6	454(+2)	6.1④	大竹正博(美浦)	
7	④	ファミリータイム	牡 4	55	松山弘平	クビ	6-6-9-6	33.8	478(+2)	4.6①	石坂一(栗東)	
8	⑪	マイネルモント	牡 5	56	丹内祐次	1	7-6-7-6	34.1	464(±0)	17.6⑧	高木 登(美浦)	
9	⑨	ヴィンセンシオ	牡 3	56	杉原誠人	アタマ	3-3-3-3	34.5	502(-12)	14.1⑥	森 一誠(美浦)	
10	⑤	オニャンコポン	牝 6	55	菅原明良	クビ	11-11-11-10	33.9	462(+2)	20.9⑨	小島茂之(美浦)	
11	②	ウインエーデル	牝 5	52	西塚洸二	クビ	8-9-12-12	33.7	462(+2)	110.8⑬	吉田直弘(栗東)	
12	⑩	ダンディズム	牝 9	55	富田 暁	¾	15-15-15-15	33.2	480(+6)	280.2⑫	野中賢二(栗東)	
13	⑬	ショウナンアディブ	牡 6	55	池添謙一	クビ	8-8-3-4	34.5	518(+12)	126.1⑪	高野友和(栗東)	
14	⑭	マイネルケレリウス	牡 5	55	丸山元氣	3	17-17-16-16	32.7	432(+2)	44.7⑩	奥村 武(美浦)	
15	①	ホウオウブサンゲ	牡 4	54	吉田準人	½	1-1-2-2	35.6	488(-6)	114.4⑪	矢作芳人(栗東)	
16	⑮	グーデンドラーク	牡 6	55	竜田温心	5	4-4-5-6	35.8	536(+6)	114.6⑫	池添 学(栗東)	
17	⑮	カネフラ	牡 5	53	斎藤 新	クビ	18-18-17-17	33.3	452(+4)	216.3⑮	高橋健之(栗東)	
牝 ⑦	リフレミシング	牡 7	57	M.デム-ロ		16-16-18-18	472(+2)	32.7⑩	藤野健太(栗東)			

単勝⑤640円(3<sup>▲</sup>%) 複勝①80円(1<sup>▲</sup>%) ⑦380円(6<sup>▲</sup>%) ③320円(5<sup>▲</sup>%) 枠連④-④3,250円(15<sup>▲</sup>%)  
馬連⑦-⑧3,040円(10<sup>▲</sup>%) ワイド⑦-⑧850円(6<sup>▲</sup>%) ③-⑧830円(5<sup>▲</sup>%) ③-⑦2,560円(33<sup>▲</sup>%)  
馬単⑧-⑦5,970円(20<sup>▲</sup>%) 3連複③-⑦-⑧11,540円(37<sup>▲</sup>%) 3連単⑧-⑦-③55,460円(166<sup>▲</sup>%)  
5重勝⑦⑮⑩①⑧7,319,460円(41票) 対象競走：中山10R／中京10R／阪神11R／中山11R／中京11R



通過タイム： 600m 800m 1000m 上り： 800m 600m  
35.1 - 47.7 - 1:00.3 45.3 - 34.1

### アラカルト

- ・古川吉洋騎手は中日新聞杯初勝利。JRA重賞は25年2勝目、通算13勝目
- ・宮徹調教師はコスモファントムで制した11年に続く中日新聞杯2勝目。JRA重賞はコパノリチャードで制した14年高松宮記念に続く通算13勝目
- ・ハーツクライ産駒はJRA重賞通算89勝目
- ・5歳馬の勝利は24年デジエルトに続く通算17回目
- ・リフレミシングは競走中に疾病(右前肢跛行)を発症したため4コーナーで競走中止

## シェイクユアハート *Shake Your Heart*

牡 栗毛 2020.3.30生  
北海道千歳市 社台ファーム生産  
馬主・吉田千津氏 栗東・宮徹厩舎  
馬名意味・心を揺さぶる

ルンバロッカIRE系 F2-I		
ハーツクライ 鹿毛 2001	サンデーサイレンスUSA 青鹿毛 1986	Halo Wishing Well
	アイリッシュダンス 鹿毛 1990	トニービンIRE ビューバーダンスUSA
ルンバロッカIRE Rumba Loca 鹿毛 2001	Sri Pekan 鹿毛 1992	Red Ransom Lady Godolphin
		Fabulous Dancer
	Rumba Azul 芦毛 1994	Rare Sound

5代までのインブリード：Hail to Reason S4×M5 Northern Dancer M4×S5

## INTERVIEW

東礼治郎場長(社台ファーム)

### 我々も自信を得られました

父の産駒によく見られる肢勢面での不安があり、その点を考慮に入れつつ実戦を使いながら強くしていったほしいという願望から、宮調教師に依頼しました。希望以上の成果を毎回出してくれて頭が下がります。幼少期から期待と不安が共存していましたが、重賞を勝つまでになってくれて我々も自信を得られました。ファンの多い馬で、その後押しにも感謝しています。

### 父ハーツクライ

北海道千歳市 社台ファーム生産 中央、首、英19戦5勝(ドバイシーマクラシック・首<sup>G1</sup>、有馬記念<sup>G1</sup>、京都新聞杯<sup>GII</sup>)、最優秀4歳以上牡馬、07年から供用、21年引退、23年死亡。19年日本リーディング2位  
〔代表産駒〕**ドウデュース**(日本ダービー<sup>G1</sup>、ジャパンC<sup>G1</sup>、有馬記念<sup>G1</sup>、天皇賞(秋)<sup>G1</sup>)、**リスグラシュー**(コックスプレート・豪<sup>G1</sup>、宝塚記念<sup>G1</sup>、有馬記念<sup>G1</sup>)、**ジャスタウェイ**(ドバイデューティフリー・首<sup>G1</sup>、天皇賞(秋)<sup>G1</sup>、安田記念<sup>G1</sup>)、**コンティニュアスJPN Continuous**(英セントレジャー<sup>G1</sup>)、**ヨシダJPN Yoshida**(ウッドワードS・米<sup>G1</sup>、ターフクラシックS・米<sup>G1</sup>)、**ワンアンドオンリー**(日本ダービー<sup>G1</sup>)、**ヌーヴォレコルト**(オークス<sup>G1</sup>)、**スワーヴリチャード**(ジャパンC<sup>G1</sup>、大阪杯<sup>G1</sup>)、**シュヴァルグラン**(ジャパンC<sup>G1</sup>)、**サリオス**(朝日杯フューチュリティS<sup>G1</sup>)、他に重賞勝ち馬多数

### 母ルンバロッカIRE

伊、仏16戦5勝(伊1000ギニー<sup>G2</sup>、マリナレ共和国賞・伊L、クリテリウムラブラーニコ・伊L、アレサンドロペローネ賞・伊L3着)、05年輸入。20年用途変更フェーズシックス(06 牡父フジキセキ)中央14戦1勝、地方2戦0勝  
スカイミュージック(07 牡父アグネスタキオン)中央3戦0勝、地方12戦4勝  
ロッカヴェラーノ(08 牡父マンハッタンカフェ)中央8戦3勝(すみれS<sup>OP</sup>、オリオンS)  
クロスカプリング(09 騾父ダイワメジャー)中央21戦2勝  
アウトオブシャドウ(10 牡父ハーツクライ)中央21戦4勝(湯川特別)  
ロッカバラード(11 牡父ゼンノロブロイ)中央22戦1勝  
ロッカフェスタ(12 牡父マンハッタンカフェ)中央10戦4勝(月岡温泉特別)  
レッドイグニス(13 騾父ハーツクライ)中央33戦3勝(いわき特別、ノエル賞)  
レディロックバンド(14 牡父マンハッタンカフェ)中央4戦0勝、テオー  
ルビー ⑩(西郷特別)の母  
リンディーホップ(15 牡父ハーツクライ)中央22戦4勝(ユートピアS、かもめ島特別、美濃特別)  
(16 不受胎)  
ソステヌートベダル(17 牡父オルフェヴル)中央4戦0勝  
バジェナート(18 牡父オルフェヴル)中央6戦0勝、地方37戦2勝  
ロープスピニング(19 牡父キンシャサノキセキAUS)中央28戦2勝  
**シェイクユアハート** 本馬(20 牡父ハーツクライ)中央27戦5勝(中日新聞杯<sup>GIII</sup>、垂水S、清滝特別、小倉記念<sup>GIII</sup>2着、アンドロメダS・L2着)  
獲得総賞金199,782,000円



S.Suzuki

## 新シーズンへ弾みをつける重賞初制覇

傑出した存在は見当たらず、ハンデ戦らしい混戦ムードに包まれた中日新聞杯は、ともに3勝クラスを勝ち上がったばかりで、今回が重賞初挑戦となる4歳馬ファミリータイトムとシンハナダが、2番人気の支持を集めた。とはいえ鮮やかな強襲を決めたのは2頭に次ぐ存在と目されていた5歳馬シェイクユアハート。出世の階段をゆっくりと上ってきたハーツクライ産駒が、上位人気を譲った4歳馬に「一日の長」を示し、初の勲章を手にした。

争いはスナリと決着。2コーナーから向正面にかけてペースは緩んだものの、縦長の隊列でレースは進む。ファミリータイトムは先頭から大きく離れた6番手で折り合いに専念し、シェイクユアハートの古川吉洋騎手は直後の中団を追走。シンハナダはこれを見ながら、後方でじっくりと脚を溜めた。3コーナーに差し掛かると、闘志に火がついたピースワンデュークが先頭へ。残り800m地点から11秒台前半のラップが刻まれていくなか、古川騎手も外を回って追い上げにかかる。迎えた直線、残り100m地点では馬群を割って伸びたレッドバリエントが先頭に立ったのも束の間、息の長い末脚を繰り出したシェイクユアハートが鋭く強襲。一気に先頭へ突き抜けてゴールに飛び込んだ。

3歳時の秋に1、2勝クラスを連勝した後は、コンスタントに上位入着を重ねながらも「次の1勝」になかなか手が届かなかった本馬だが、5歳のシーズンを迎えて覚醒。6月の垂水Sを鋭く差し切って1年8カ月ぶりの勝利を飾ると、昇級初戦の小倉記念でも2着に食い込んだ。続く新潟記念は11着に大敗したものの、2カ月余りの休養を挟み、アンドロメダS2着をひと叩きして臨んだこの日は本領を発揮。馬群の外々を回って差し切る中身の濃い内容で重賞初制覇を果たし、新たなシーズンに弾みをつけた。